

(16) 病理診断科（井田病院）（選択科目）

◎研修カリキュラム責任者：杜 雯林 病理診断科・検査科部長

良い診療のためには精度管理された病理診断・臨床検査が不可欠であることを理解し、それを行う上で必要な知識、技術、態度を身につける。病理研修が中心となるが、臨床検査も行い理解を深める。

A. 研修目標

1. 一般目標：

臨床医学における人体病理学の役割を理解し、臨床医学的視点並びに病理学的視点から個々の症例を総合的に評価する習慣を身に付ける。

2. 行動目標：

臨床医学に必要な、病理学における基本的知識、技術を習得することによって、病理学的な思考力、判断力を培い、臨床現場との円滑なコミュニケーションを図り、病理診断学的立場から、チーム医療に参加できるようになる。

3. 経験目標：

I. 病理部門

①病理解剖の実施

- 1) 病理解剖に関する関連法令の遵守
- 2) 解剖の基本的な手技の習得
- 3) 肉眼的観察、写真撮影、病変部の切り出し
- 4) 組織学的観察を行い、臨床経過、病理解剖所見から、疾患の系統的な理解
- 5) 解剖報告書の作成と、診療者への結果説明

②生検検体の処理・診断

- 1) 手術材料の切り出し、生検検体の処理
- 2) 肉眼所見・組織学的所見の把握
- 3) 診断書の作成

③細胞診検体の基本的処理、観察

- 1) 種々の細胞診検体の処理
- 2) 代表的症例の細胞診標本の検鏡

④ 病理検査に関する基本的な手技の理解

- 1) HE 染色
- 2) 各種特殊染色
- 3) 免疫組織化学的染色
- 4) 顕微鏡写真撮影

5 症例検討会等への参加

- 1) 院内CPC（年5回）・消化器がんボード（月1回）・乳腺外科がんボード（月1回）呼吸器がんボード（月1回）への参加・発表
- 2) 院外の研究会・学会等への参加

II. 臨床検査部門

①オリエンテーション

- 1) 検査業務の概要を知る。
- 2) 検査依頼の方法や注意点について理解する。
- 3) 血液型検査を行う。
- 4) グラム染色をできるようになる。

②クルズス

- 1) 賢い検査の進め方」の講義を聴講する。

③カンファレンス・勉強会への参加等

- 1) R-CPC（年4～5回）、勉強会（年24回）へ参加する。
- 2) 季刊紙「ラボメール」の抄読

B. 研修計画

研修期間は1ヶ月とする。

- 1) 午前中は主に手術標本の切り出しを行う。
- 2) 午後から病理専門医の指導の下で鏡見後に仮報告書を作成し、フィードバックを受ける。
- 3) 術中迅速診断がある場合には、指導医の指導の下で依頼に細胞診の仮報告を行う。
- 4) 病理解剖は適宜行う。解剖報告書は、自ら解剖を行わなかった症例について作成することもありうる。

生検診断については、研修中に診療科から依頼されたもの以外にも、過去の蓄積された症例についても行う。細胞診検体の処理・観察、各種染色（免疫組織化学的染色を含む）等は、研修期間中適宜行う。

C. 指導体制

杜 雯林 病理診断科・検査科部長

D. 評価

- 1) 研修医は、経験目標に従って、自己の研修内容を研修医手帳に記録し指導医に提出しフィードバックを受ける。
- 2) 研修終了時に、当院研修医評価票に基づいて評価を行う。